

活動報告書

報告者氏名:平木 智子 所属:門司総合特別支援学校 記録日:平成31年 2月 26日

【対象児の情報】

- ・学年 知的障害教育部門 小学部 6年 11歳
- ・障害と困難の内容
 - ◎知的障がい
- ・その他

【活動進捗】

(当初のねらい)

①本児の不安や不登校の原因を探り、学校に本児の居場所と友達を見つける。

②学習に対する負荷を軽減しながら、学習に対する興味関心を高める。

・ねらい①に関して、不安や不登校の原因を探るだけでなく、全日登校に向けて対策を立て、行動することも加えた。

・ねらい②に関して、諸検査を実施しながら本児のできる力を利用して学習支援を行うこととした。

(本年度の目標)

①本児の不安や不登校の原因を探り、全日登校に向けて対策を立て、学校に本児の居場所と友達を見つける。

②学習に対する負荷を軽減しながら諸検査を通じて本児の能力を知り、学習に対する興味関心を高める。

・実施期間 平成30年6月1日～平成30年1月31日

・実施者 平木 智子

・実施者と対象児の関係 クラス担任

1. 対象児の事前の状況

(本児の家庭状況)

・本児の不登校の原因は父親の半養育放棄によるものである。

(1) 本児の不登校と不安について

- ・休みが続いていることから登校するとみんなから何を言われるのか、どんな対応をされるのかが不安で一歩が踏み出せないでいる。家庭訪問すると、「今日は何をしたの?」「みんなは俺のことどう言ってる?」などと不安な様子が伺えた。
- ・不安なときはトイレに行き、時間を潰している。登校時は常に私の側から離れずに、行動をともにしている。私がトイレに行く時にはトイレの前で待ち、一人であることが不安であることが伺えた。
- ・登校準備は一人でするには限界があるので、足りないものがある時にどうしていいのかがわからない。家庭において支援する人がおらず、物品の管理もできていないため、必要なものが用意できなかったり、買いそろえてもらえなかったりする。そのため、みんなと同じように揃っていないことに不安を感じているようである。
- ・話をすることのできる友達がいないので、学校にいてもつまらないと感じているようである。会話はいつも教師とだけ行い、友達同士で話すことはない。学年において対等に話をすることのできる児童がいないことも影響していると考えられる。学級での生活に興味を引かないと教室で転がり、寝てしまうこともあった。
- ・自宅で、掃除や洗濯、兄の面倒を見ているので、学校に行けない。常に家事の役割があり、本児の負荷になっているものと思われた。
- ・飼っているハリネズミが心配で側にいたい。母と一緒に育てた思い出もあるのではないと思う。「お母さんと一緒に買いに行つて決めたんだ」と言う発言もあり、ハリネズミを通して母を慕っているように感じられた。また、母性を求めているように見受けられ、特に女性教員との距離感が近く感じられた。



女性教員に「頭触つて」と戯れている様子

(2) 学習について

- ・1年生の頃から机上学習と音楽が苦手である。学習となるとやりたがらなかったり、音楽は聞くのはとても好きだが、人前で歌ったり、踊ったりすることを苦手としていた。
- ・人前で感想を発表したり、文を読んだりすることが苦手である。人前に出ることが好きではないことに加え、読み書きが苦手なことも原因であると考えられた。実際、MINのテストでは3つの言葉を繋げているものを分解することに、大変時間がかかっていた。引き継ぎ資料で国語は1・2年生相当の学習をしていると記載されてあったが、本児の実態からすると少し負荷がかかっているように感じた。
- ・国語は1年生の内容、算数は3桁の足し算・引き算に取り組んでいる。読み書き・計算全般に時間がかかり、取り組んでいるうちに何をしようとしているのかわからなくなってしまう時があり、「先生、どうするんやっ たっけ?」と聞き返してくることがよくあった。
- ・多層指導モデル MIM (Multilayer Instruction Model) のテストと URAWSS (Understanding Reading and Writing Skills of Schoolchildren) のテストを行った。テスト前から本児に「読み書きではどちらが苦手?」と聞くとすぐに「書くのが

<書き速度>				評価	小6	平均
課題の種類	書いた文字数	1分間の書字速度				
P9 ① 書き課題 (有意味文)	60 (字)	60 (字) ÷ 3 (分) = 20 (字)	A	B	3年	
P13 ② 書き課題 (無意味文)	47 (字)	47 (字) ÷ 3 (分) = 15.7 (字)	A	C	2年	
備考:						
<読み速度>				評価	小6	平均
課題の種類	読んだ文字数	1分間の読み速度				
P21 ③ 読み課題	25 (字)	25 (字) × 6 = 150 (字)	C	C	1年B	
P23 内容理解	6問中	5 問 正解	URAWSS のテスト結果			

苦手。難しい」と言っていた。しかし、3年生用のテストを実施すると、書き速度については有意味文で3年生相当、無意味文で2年生相当という結果であった。読み速度については、1年生においても支援が必要なレベルで、内容理解について時間はかかるが、ほぼ正解していた。この結果を本人に見せ、読みに対する学習が必要であること、また、その援助方法についても読み上げ機能を利用した学習を取り入れることにした。

- ・体育や図画工作が得意で、絵画においては昨年、特選を受賞した。体育では早く走ることに興味をもっており、どうしたら速く走れるようになるのかをよく聞いていた。
- ・学年において、学力の差が激しく、本児以外は中度から重度の知的障害児童である。本児にとっても興味を引くような内容や授業展開が必要であると考えられた。
- ・家庭で、どこかに連れて行ってもらうという経験がないことから校外学習を楽しみに過ごしている。いつあるのか。どこに行くのかが気になるようであった。
- ・知らないことは知りたいという興味関心が幅広い。自分が知らないこと、わからないことはすぐにYoutubeで検索し情報を得ていた。漢字が読めず、文の意味理解も難しいので、辞書などで調べることもよりもYoutubeでの検索になっていたと思われた。
- ・iPadの操作は慣れており、かな入力ができる。これもYoutubeでの検索がしたくて覚えたものと思われる。好きなアーティストの検索や動物・世界の不思議について閲覧することが多かった。

2. 活動の具体的内容

(1) 不登校と不安の解消に向けて

① 登校について

登校を促さないと4月のように1回しか登校できないので、学校としてできることをしながら、福祉との連携をもつことにした。具体的には以下の順を追って支援することにした。

5月・・・父親による出勤前の送迎

6・7月・教師による週2回の登下校支援(自宅からスクールバスのバス停まで)

9月・・・事業所による移行支援(自宅からスクールバスのバス停まで)

② 不安について

学部や学校全体で「本児が休みたくて休んでいるわけではないこと。本児が登校した際には温かく迎えてほしいということ。そして、女性教員に関しては距離感が近いと思うが母親がいない寂しさからきていると思われる。学校生活に慣れるまでは、その点は指導しないでほしい」ということを共通理解し、それぞれの対応にあたってもらった。

③ 不安解消のために使用したアプリ

・カメラ

 本児も興味関心の高い早く走ることにに関して、5.6年合同の有志で作った陸上クラブを結成し、キャプテンとして休み時間を利用した活動を行うことにした。そうすることで、本児のやりがいや居場所を作ることにした。自分や速い人の走る動画を撮影したり、スロー再生して修正箇所を確かめたりした。



・EMOL

 自分の感情を知ったり、表出したりすることを狙ってEMOLというアプリを使った。始めは「まあまあ」だけを選んでだったが、少しずつその時の感情にあったものを選ぶようになってきた。「不快な感情も表出していいんだ」という思いにも繋がったと思われた。

(2) 学習について

①読み書きの強化のため、以下のアプリを使用することにした。

・国語海賊1・2年(読み)



漢字も読みから定着を図ることにした。国語は1・2年相当の学習を行っていると言っていたが、定着が図れていなかったなので、楽しみながら学習できる国語海賊に取り組んだ。



・ひらがな(読み)



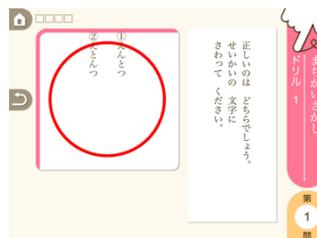
読みの力を高めるために「ひらがなトレーニング」というアプリを利用した。拗音や促音など不確かな読みを繰り返し学習することにより、少しずつ音読に対して意欲的になっていった。以前はわからないことは Youtube で検索していたが、HP で検索していることも増えてきた。



・言葉と文(ゆびどりる)(書き)



似た言葉やしりとりなど問題文を読みながら一部だけ記入することで、本児の学習に対する負荷を減らし、読み書きの理解を深めることができた。



・ピッケえほん(読み書き)



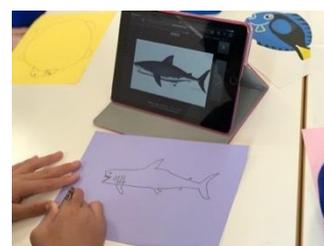
校外学習を楽しみにしているが、全日登校できていないので事前授業等が受けられず不安になることも多い。そこで、ピッケえほんで校外学習の流れを作り、文を入力したり、声を拭きこんだりすることで、安心して参加できるようになった。



・Safari(学習全般)



得意なことで学習に積極的に参加できるよう、絵を描く機会を作っている。自分が描きたいものをネットで検索し、それを見ながら描いていった。教師にも褒められることが多く、授業にも楽しく参加するようになってきた。その後はニュースなど聞いただけではわからなかったことを調べたり、校外学習などの事前学習を行ったりした。



②MIM による読みのテストと評価と振り返り

③おはなしドリルを使った読解トレーニング

3. 対象児の事後の変化

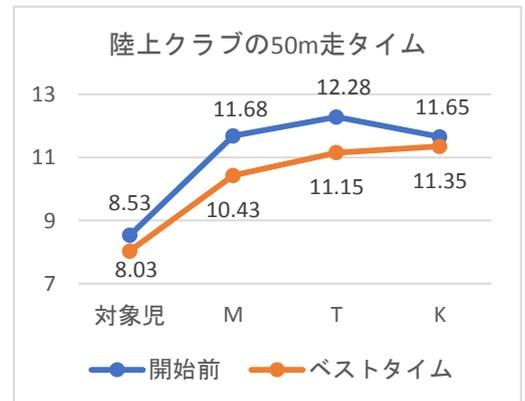
(1) 登校と不安について

毎日、自宅からスクールバスのバス停までの送迎を確保することができるようになった。9月は手続き後から休むことなく、出席することができるようになった。1学期の取り組みから少しずつ学校生活にも慣れ、自分の居場所を確保できたこと、出席率も上がり、学習に向かう体制も作ることが出来た。また、不安の表われであるトイレ回数も1日8~10回だったものが、1日に3回ほどになった。クラスでの居場所があることを本児が理解し、クラスにいても落ち着いて過ごすことができているからだと思う。また、床に寝るような行動は全く見られなくなってきた。

EMOL を使った感情表現に慣れてきたあたりから、教室のドアに棒磁石で顔の表情を示して自分の気持ちを表出できるようになってきた。最初は悲しんだり、怒ったりするような表情ばかりを掲示して作っていたが、次第にニコニコ笑顔の掲示が増えてくるようになった。これは自分の感情を言葉で伝えることができなくても表現する方法を手に入れたためだと思う。2学期に入ってから、棒磁石を使うことなく言葉で教師に自分の気持ちを伝えることができてきた。



クラブ活動として取り組み始めた陸上クラブは、本児の友達との関わりを築くために、とても有意義な活動であった。友達の走るフォームをビデオに撮り、的確なアドバイスをしたり、雨の日には廊下でトレーニングメニューを考えたりしていた。友達からの信頼も厚く、走るタイムが速くなると一緒に喜んでいた。



(2) 学習について

① 読み書き強化のためのアプリ使用について

国語海賊のアプリを使用することで、難しいと苦手意識をもっていた漢字学習への意欲が芽生えてきた。小学校1・2年の漢字は全て読めるようになり、1年生の漢字は書きも全てできるようになった。ひらがなアプリの使用では、今まで不確かだった特殊音節の定着を図ることができた。「なんて読むんだっけ」と言ったり、適当に読んだりすることがなくなった。

言葉と文のアプリを使うことで、書くことに少しずつ慣れていき、1時間の基礎学習(国語・算数)の時

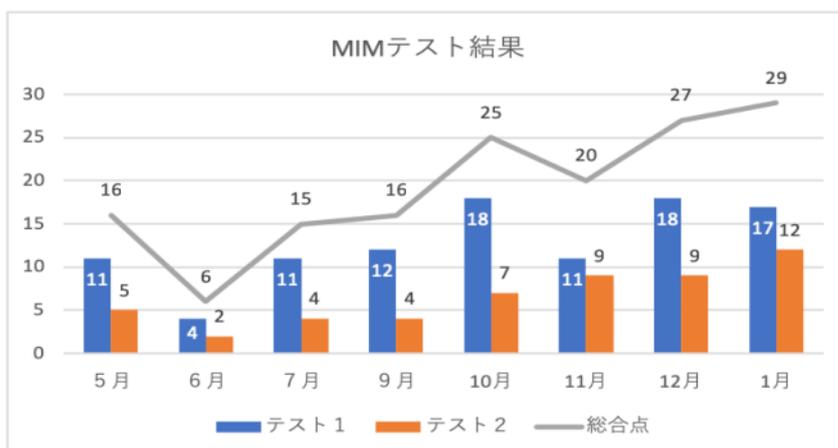
間いっぱい学習に取り組むことができるようになった。

ピッケえほんのアプリでの絵本作成で、文を作ったり、作った文を読んだりして絵本を作成させた。クラスメイトからも称賛されたこともあり、苦手な読みや作文も意欲的に取り組むようになった。この後、11月から毎週月曜日に、知的小学部1年生に絵本の読み聞かせをするようになった。最初は、1年生の前で読むことにとっても緊張しており、読むだけで精一杯の様子だったが、次第に、1年生の反応を見て、1年生に問いかけてやり取りをする場面を多く見るようになった。そして、読み聞かせの絵本を選ぶ際には「1年生はどんなのが好きかなあ？」と1年生を思いながら選んだり、読みの練習を動画で撮り振り返ったりするようになった。今では読み聞かせをとっても楽しみにしており、絵本を楽しみに選んだり、絵本を読む中で1年生に対し、どんな言葉かけやクイズを出そうかと考えたりするようになった。読み書きの能力を伸ばしたことは学習の素地を築いただけでなく、他者を思いやり、やりとりを楽しむようになった。



②MIMによる読みのテスト・評価と振り返り

MIMのテストに関しては、6月にクラス全員で取り組むと、まわりの児童の出来が気になって全く集中することが出来なかった。それ以降は、個別対応ができる部屋でテストを行うことにした。個別で行うと自分のペースで回答することができた。3つの言葉が繋がっているものは、やはり区切り方がわからずに苦慮していた。そこで、語彙を増やしつつ、分ち書きしている文章を読



んでいくことで、少しずつ得点が伸びていった。

今までは検索で聴覚優位なこともあり、YouTubeで検索することが多かったが、読み上げ機能の使い方を覚えると「ホームページの方がたくさんある」と言ってホームページで検索するようになった。その後、「プリントを写真に撮って、読み上げ機能を使える?」「教科書も読んでくれると?」などと、学習に意欲的になってきた。写真に撮った物をiBooksに保存し、読み上げ機能を使って意味理解をする流れは学習することが出来た。

URAWSSのテストを行って実践前と比較してみた。アプリの活用から読み書きに対する学習意欲も

		開始前	評価	実践後	評価
1分間の書字速度	有意味文	20字	小3相当	23字	小6相当
	無意味文	15.7字	小2相当	28.6字	小6相当
1分間の読み速度		150字	小1平均以下	222字	小3相当
内容理解(全6問)		5問	正解率83%	6問	正解率100%

向上し、下記のグラフに示すように読み書きに対する速度と理解力が上がったことが分かる。

③おはなしドリルを使った読解トレーニング

10月から文章読解トレーニングにも取り組むようになった。本児が好きな生き物や宇宙の不思議が出題されるものである。1冊に約30本の問題があり、1本につき15分とされていた。当初は1本20分近くかかることもあったが、今では10分弱で解き終わり、計3冊解くことができた。これらの学習を通して、今までは理解することのできなかつた算数の文章問題にも取り組み、正解するようになった。



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ①すぐに事業所等のサービスをするのではなく、関わり合う人を少しずつ増やしていき、サービスに移行したことが本児の安心感につながったのではないだろうか。
- ②2学期、本児が楽しみにしていた体育大会や修学旅行が終わっても、継続的に登校できるよう本児の居場所として本児が活躍できるランニングクラブを作ったことが、同級生や下級生との関係を築ききっかけになったのではないだろうか。
- ③1年生の絵本の読み聞かせを行うことによって、自分にできること、そして、役に立つことを知り、読み書きの学習にも積極的になったのではないだろうか。

・エビデンス

①と②について

事後変化にも記載してあるように、出席率は9月の引越しに伴う欠席を除き、2学期以降は100%になっている。実際、「家にいても時間が長く感じる」と本児が口にしてることから、学校に居場所が見つかり、登校意欲に繋がっていると思われる。本児は小学部6年である。4月からは中学部に入学することも考え、今から中学部の友達を作るような活動をしたり、中学部の先生と触れ合う機会を作ったりして、本児が安心して登校できるよう計画していきたい。

③について

MIM や URAWSS の検査結果からも分かるように、読み書きに対する素地ができたと思われる。今までは理解に時間がかかったり、理解できなかつたりしたことが理解できるようになったことは大きい。体を使った手伝いを率先して行っていた本児が、1年生への読み聞かせをするようになったということは自分にもできるという自信と学習で役に立つという誇りがあつた。学習の基礎となる読み書きの素地を築けたことで、国語や算数などの理解も進み、今まではできなかつた算数の文章問題も回答できるようになった。これからも、読み書きの力をつけ、本児の能力を更に引き出せるよう支援していきたい。